

但馬皇女の高市皇子の宮に在しし時に、竊(ひそ)かに穗積皇子に接(あ)ひ、事既に形(あら)はれて作りませる御歌一首				
人事乎	繁美許知痛美	己世介	未渡	朝川渡
人言を	繁み言痛み	己が世に	いまだ渡らぬ	朝川渡る
ひとごとを	しげみこちたみ	おのがよに	いまだわたらぬ	あさかはわたる
人のうわさが多くて、うるさくてたまらない。				
今までに渡ったことのない川を、朝、渡り、あの人に会いに行くのだ。				
(明るいから人に見られるだろうが、かまうものか。)				
Because the endless harsh rumors make it pointless to hide,				
I set off this morning to do something I have not dared even once on my life,				
stride across the daylight river!				
【文献】 ピーター・J・マクミラン(2019): 英語で味わう万葉集, 文春新書 1245 <a href="https://kochi-esc.sakura.ne.jp/wordpress/%e4%b8%87%e8%91%89%e3%81%ae%e5%9c%b0%e5%ad%a6/">https://kochi-esc.sakura.ne.jp/wordpress/%e4%b8%87%e8%91%89%e3%81%ae%e5%9c%b0%e5%ad%a6/</a>				
英文はマクミラン(2019) による				
万葉集 卷二 116 但馬皇女				